

比較家族史学会

会報 比較家族史 48

事務局 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-7 弘文堂気付

郵便振替(会費)00130-4-25222 (年報バックナンバー・その他)00180-3-604964

比較家族史学会第四九回研究大会

日時 二〇〇七年六月一六日(土)、一七日(日)

会場 神戸大学瀧川記念学術交流会館・大会議室

※阪急神戸線・「六甲」駅、またはJR神戸線・「六甲道」駅より神戸市バス三六系統(鶴甲団地行など)乗車、「神大文理農学部前」下車) 別図参照

甲道」駅より神戸市バス三六系統(鶴甲団地行など)乗車、「神大文理農学部前」下車) 別図参照

問合せ先 神戸大学大学院人文科学研究科社会学研究室・藤井勝

神戸市灘区六甲台町一の一 (〒六五七―八五〇二)

電話・FAX 〇七八・八〇三・五五一四(藤井勝)

メールアドレス

(社会学研究室・藤井勝)

資料代等 一〇〇〇円(会員外の方も同額)

弁当代 一〇〇〇円

◆第一日目(六月一六日)

受付開始 午前九時

〇会長挨拶・岩本由輝(東北学院大学)

九時三〇分〜九時四〇分

〇会場校挨拶

九時四〇分〜九時五〇分

〔シンポジウムI〕「宗教と家族―宗教思想と家族観―」

司会 村上興匡(大正大学)・小島宏(早稲田大学)

「趣旨説明」

九時五〇分〜一〇時一〇分

(報告1) 細川涼一(京都橘大学)

〇昼休み

〔日本中世の仏教と家族〕

一〇時一〇分〜一〇時五五分

〇休憩 五分間

(報告2) 芳賀学(上智大学)

〔現代新宗教の家族観―真如苑の場合―〕

一一時〇〇分〜一一時四五分

(報告3) 岡田浩樹(神戸大学)

〔転換期の韓国社会における儒教と家族観〕

一二時四五分〜一二時三〇分

〇昼休み

一二時三〇分〜一二時五〇分

(報告4) 大黒俊二(大阪市立大学)

〔説教にみる家族像―中世イタリアのキリスト教と家族―〕

一三時五〇分〜一四時三五分

(報告5) 堀井聡江(桜美林大学)

〔イスラームと家族〕

一四時三五分〜一五時二〇分

〇休憩 一〇分間

(報告6) 富澤かな(東京経済大学・非常勤)

〔近代のインド理解における家族像〕

一五時三〇分〜一六時一五分

〇休憩 五分間

シンポジウムI: 質疑と討論

一六時二〇分〜一八時二〇分

○懇親会 一八時三〇分～二〇時三〇分

会場 神戸大学瀧川記念学術交流会館・

食堂

会費 五〇〇〇円

◆第二日目・六月一七日

【シンポジウムⅡ】「家族と宗教実践―東アジアにおける伝統と現代―」

司会 藤井勝(神戸大学)・三成美保(摂

南大学)

「趣旨説明」

九時三〇分～九時四〇分

(報告1) 森本一彦(関西大学・非常勤)

「日本近世の家族と檀家制」

九時四〇分～一〇時一五分

(報告2) 奥井亜紗子(神戸大学・非常勤)

「戦後日本の都市移住者家と祖

先祭祀―兵庫県美方郡山田地

区の事例から―」

一〇時一五分～一〇時五〇分

△休憩 一〇分間▽

(報告3) 首藤明和(兵庫教育大学)

「中国家族における伝統的宗教

実践の再構成」

一一時〇〇分～一一時三五分

○総会 一一時三五分～一二時二〇分

○昼休み 一二時二〇分～一三時二〇分

(報告4) 長坂格(新潟国際情報大学)

「フィリピン低地社会における

家族と宗教実践―イロコス農

村の事例―」

一三時二〇分～一三時五五分

(報告5) 橋本(関)泰子(四国学院大学)

「タイ・ラーマン(モーン)系住

民における宗教と家族」

一三時五五分～一四時三〇分

△休憩 一〇分間▽

シンポジウムⅡ・質疑と討論

一四時四〇分～一五時五〇分

○閉会挨拶(会長)

一五時五〇分～一六時〇〇分

運営委員 藤井勝(神戸大学、委員長)

村上興匡(大正大学)

小島宏(早稲田大学)

奥井亜紗子(神戸大学・非常勤)

■研究大会趣旨説明

東西冷戦体制の崩壊以降の社会秩序として、宗教や民族にもとづく国際秩序の再編成がなされると予言されてから、〇年ほどが経過した。そのなかで、ポストモダンイズムとも連動しながら、宗教はクロースアツプされてきた。「宗教はアヘン」といった見方は遠い過去のものとなり、宗教は人間生活にとって不可欠であるという認識が普及している。

ところで宗教は信仰であり、心や精神の問題であるから、原則的には個々の人間に属す事柄であるが、歴史的・比較文化的にみれば、「宗教と家族」は密接な関係をもってきた。とくに日本人にとっては、このことは理解しやすい。日本では、家、一つの祖先信仰という宗教を担う集団として伝統的に存在し、その祖先信仰は多くは仏教と結びついて檀家制度を形成してきたからである。檀家制度を生み出した体制的構造は近代に崩れ、さらに戦後の都市化過程のなかで家と宗教の関係は実態的にも揺らいでいるが、以上の仕組みは、今日の日本人にあっても宗教観の原点となっているであろう。

さらに、従来の家族論によっても、宗教と家族の結びつきはより一般的に捉えることができよう。例えば、機能主義のG・P・マードックや構造主義のC・レヴィ・ストロースは、結婚と、そこから生じる夫婦関係を家族の基礎的契機とみなしたが、そもそも夫婦間で宗教が異なることはまれではなからうか。宗教によっては異教徒との結婚を明示的に禁止しているし、異教徒との結婚が容認されても、宗教の相違を維持したまま夫婦関係を長期間維持することは困難であろう。最終的には、どちらかが自らの宗教を譲り、相手の宗教に合わせることになる。つまり夫婦は同じ宗教観のものに成り立つ傾向があり、その夫婦関係から生じる子供達も、すくなくとも成人するまでは親達と宗教を共有する。理念的には、家族は宗教的共同性をもつことになる。

筆者は、近年、研究の關係で東南アジアとくにタイ国を訪れることが多いが、そこで出会う様々な家族をも、いつの間にかそのような目で眺めている。タイ国はタイ族を基本としながらも多民族・多宗教の社会であり、加えて様々な国から膨大な観光客や長期滞在者を日々受け入れている。バン

コクの町中にいると、どこの国なのか分からないほどである。様々な宗教的背景をもった家族が生活し、行き交っている。正装したアラブ系の夫婦と子供の一行、またタイ・ムスリムの親子連れには否応なくイスラムの家族を想像し、仏教寺院の境内でくつろぐタイ人の家族には南方上座部仏教徒の家族像を描く。さらに、赤い祭壇をかざった華僑系の店に入ると道教的な家族の存在に思いをめぐらし、インド系商人達の集まる商店街ではヒンドゥー家族の雰囲気を実感する。

もつとも、「宗教と家族」の關係はそれほど単純ではなからう。両者の關係には複数の次元が存在するであろうし、また關係のあり方は宗教・民族・時代により多様性をもつであろう。外面的には両者が親和的に見えても、内実では關係が希薄であるかもしれない。したがって、この度の比較家族史学会研究大会では、このような「宗教と家族」の關係の實像をより掘り下げて説明することを目指したい。そのために二つのシンポジウムを開催し、異なった次元から「宗教と家族」にアプローチする。

シンポジウムIは、宗教の側が家族にと

のように関与するかを、教義や理念のレベルで説明する。そのために、世界の主要宗教を対象として、宗教的な教義や思想のなかに家族がどのように位置づけられているか、あるいは家族のあるべき姿が宗教によってどのように論じられているのかを明らかにする。そして、その教義や思想が家族の規範や構造にどのように影響を与えているかを考える。シンポジウムIIでは、家族の側が宗教にどのように関与するかを、日常生活のレベルで説明する。そのために、東アジア(北東アジアと東南アジア)を事例にしながら、家族生活のなかに宗教実践がどのように組み込まれているか、また、そのことがどのような意味を持つかを実証的に考察する。

グローバル化する現代社会では、異なる宗教観をもつ人々の交流、コミュニケーション、結婚などが著しく拡大している。本シンポジウムを通じて、こうした現代における「宗教と家族」の課題をも考えることができる幸いである。

(藤井 記)

■運営委員会からのお知らせ

一 研究大会の出欠については、同封の葉書にて、六月四日(月)までにお知らせ下さいますようお願いいたします。なお、資料代等として、一〇〇〇円が必要となります。懇親会費・お弁当代とも、当日受付にてお支払いください。会員以外の参加も歓迎します。

二 希望される方には、昼食のお弁当を準備いたしますので、同封の葉書にて申してください。大会当日は、学内食堂は閉まっております。近隣にはレストラン等もありませんので、お弁当を予約されることをお勧めいたします。なお、準備の関係で、当日の申込はお受けできませんのでご注意ください。事前に申し込まれた方のみとさせていただきます。

三 宿泊をご予定の方へ

運営委員会では宿泊の斡旋はしておりません。お手数ですが、各自でご予約いただきますよう、よろしくお願いいたします。

■事務局からの連絡

一 会費納入のお願いと連絡

年会費は、個人会員は三〇〇〇円です。

今回は会費未納分のある方に振込用紙を同封しております。住所ラベルの右下の既納年度(二〇〇七年五月一日現在)が更新してありますが、同日以降の振込み、および行き違いの節はご宥怒ください。また、学校法人名で振り込まれるときは、必ず通信欄に会員氏名をお書きください。

二 学会関連書籍の購入について

これまでたびたびお願い申し上げましたが、現下の出版状況から、特に会員および会員の所属各大学図書館での学会関連書籍購入方につき、特段のご協力をお願いいたします。

『シリーズ比較家族』は早稲田大学出版部、『事典家族』は弘文堂、『家族―世紀を超えて』は日本経済評論社にご注文ください。ほかの書籍を含めて二割引で購入できます。なお、その際には、必ず比較家族史学会の会員であることをお申し出ください。

早稲田大学出版部(担当 新井)

電話 03-3203-1155

FAX 03-3207-0406

弘文堂(担当 浦辻)

電話 03-3294-7003

FAX 03-3294-7034
日本経済評論社(担当 谷口)

電話 03-3230-1661

FAX 03-3265-2993

三 『比較家族史研究』バックナンバーについて

『比較家族史研究』の既刊分の総目次はHPに掲載予定ですが、既刊分(三号までは一冊五〇〇円に値下げして販売しております。在庫処分にご協力ください。なお、創刊号から四号までは在庫がありません。購入希望の方は、学会事務局へご連絡ください。また、在庫処分を兼ね、一括購入などの際の特別割引販売も検討しております。内容が決まり次第、お知らせします。

四 事務局連絡先

〒九八〇-八五二 宮城県仙台市青葉区

上樋二丁目三十一 東北学院大学文学部

政岡伸洋研究室気付 比較家族史学会

電話 022-721-3359

(FAX兼用)

E-mail

■理事会議事録

日 時 二〇〇六年二月一九日(日)

九時三〇分

場 所 キャンパスプラザ京都 二階

第三会議室

出席者数 三三名(委任状を含む)

議題

一 新入会員および退会会員の承認について

北浦直、谷口陽子、辺静、山田巖子の四名の入会および、申し出のあった石部雅亮、稲子宣子、緒方都、笠原政治、菊地京子、白石さや、田中久夫、田端泰子、正岡寛司、松嶋由紀子、湯沢雅彦の退会が承認された。また、一三条三項の適用により、石川浩之、大石徹、高橋由紀、李映京、大森秀子、陳玲、劉夏如の退会も承認された(以上、敬称略)。

二 比較家族史研究について

本会の設立、運営に多大なご尽力を賜った大竹秀男先生、有地亨先生が相次いでお亡くなりになられたのに伴い、二一号を追悼号とすることが了承され、その他の進捗状況についても報告があった。また、抜き刷りについては、これまでもと同様に原則として受け付けないこと

が確認された。このほか、在庫数が増えつつある雑誌については、販売に力を入れるとともに、今後より一層の値下げも必要ではないかということになった。

四 シリーズ比較家族について

各巻の進捗状況についての報告があった。

五 次回以降の研究大会および秋季研究大会について

次回の神戸大学で開催される二〇〇七年度第四九回研究大会について、当初は六月九日、一〇日を予定していたが、この日に関連学会の日程が集中しているため、六月一六日、一七日へと変更することになったこと、その準備状況について報告された。

また、二〇〇七年秋季研究大会は、一〇月後半頃に東京周辺で行なう方向で準備が進められていること、二〇〇八年度の五〇回記念大会の準備状況についても報告された。なお、記念大会については、数回の準備会議を行う必要があるが、定職を持たない若手研究者については負担も大きいことから、学会から若干の補助を出すことになった。

このほか、研究大会の事務分担につい

て、現在のシステムになってからは非常に曖昧となっていたが、春季は企画委員会が、秋季は庶務委員が順番に担当していくことが確認された。

■新入会員

北浦 直(弘前大学大学院生、民俗学)

谷口陽子(お茶の水女子大学大学院研究員、文化人類学・民俗学)

辺 静(お茶の水女子大学大学院生、ライフコース論・世代間関係)

山田巖子(弘前大学助教授、民俗学)

山田巖子(弘前大学助教授、民俗学)

■会員著書・受贈図書

森本一彦「祖先祭祀と家の確立―「平櫨家」から一家一寺制へ―」、ミネルヴァ書房、二〇〇六年、五四〇〇円(税別)。

梅村恵子「家族の古代史 恋愛・結婚・子育て」、吉川弘文館、二〇〇七年、一七〇〇円(税別)。

柳谷慶子「近世の女性相続と介護」、吉川弘文館、二〇〇七年、九〇〇〇円(税別)。

義江明子「日本古代女性史論」、吉川弘文館、九五〇〇円(税別)。

熊本女性学研究会「新女性史研究」六

